

巻頭言

イスラエル・ハマスの紛争が再燃

ミッション・宣教の声主幹 黒田 禎一郎

5月10日以来、ハマスはイスラエルに向けて約3000発のロケット弾を発射し、住宅やバスを破壊しました。イスラエル側には12人の死者が出ましたが、これに対しイスラエル軍は戦闘機やドローン、自走榴弾砲などでガザ地区のハマスの拠点を攻撃しました。その際には周辺の建物にも大きな被害が生じ、パレスチナ側には243人の死者が出ました。その中には66人の子どもも含まれました。約1900人が重軽傷を負ったほか、多数のビルが破壊されました。5月21日、攻撃激化から21日目にしてエジプト等の仲介により停戦合意が結ばれました。

イスラエル側の空爆については、一部の国やメディアから「やりすぎだ」という批判が出ました。これに対しドイツのマース外相は「イスラエルのハマスの拠点に対する攻撃は、正当防衛だ。これらの拠点から、イスラエルを狙ったロケット弾攻撃が行われている限り、イスラエルはそうした施設を攻撃する権利がある」と述べ、イスラエルを弁護しました。同時に彼は、「民間人の死傷者が双方で増えている。これ以上の犠牲者を避けるために、一刻も早く停戦するべきだ」とイスラエル側に要請しました。今回の紛争をヨーロッパ・ドイツ側から覗いてみたいと思います。

停戦前に現地を訪問

5月20日、戦闘が続くサイレンが鳴り響く最中に、ドイツはマース外相をイスラエルへ送りました。G7加盟国の中で、戦闘が続いている最中に外相を送ったのはドイツだけでした。マース大臣はテルアビブ郊外で、テロ組織ハマスのロケット弾で破壊された民家を視察しました。2階の外壁には人間の身長を超える穴が開き、床はコンクリートの塊とガラスの破片で覆われています。壁は真っ黒に焦げ、1階のガレージの車もほぼ完全に破壊されていました。

マース外相はその後ヨルダン川西岸のラマラで、パレスチナ自治政府のアッパース大統領やシュタインマイヤー大統領とも会談し、停戦へ向けて努力するよう訴えました。パレスチナ自治政府とハマスの関係は必ずしも良好ではないので、アッパース大統領らの影響力は限られています。マース外相はイスラエル



だけに肩入れしているとう印象を避けて、パレスチナ自治政府をも訪問しました。

ドイツの姿勢の背景

イスラエル政府とハマスの停戦交渉はエジプトとカタールを通じて行われ、5月21日に両者は攻撃を停止しました。しかし戦闘で流れた血はあまりにも多く、今回目立ったのはイスラエルの一部の都市で、アラブ系イスラエル人とイスラエル右派勢力の衝突が起きたことです。さらにエルサレム東部のシェイク・ジャラー地区からのパレスチナ系住民の強制退去や、アルアクサモスクの扱いをめぐる議論にも解決の糸口は見えていません。紛争の火種はくすぶり続けています。

ドイツのこの路線は、ナチス時代の歴史から当然のことです。ナチスは強制収容所を建設して約600万人のユダヤ人を虐殺したほか、あらゆる市民権を剥奪して財産を没収しました。人類史で虐殺は頻繁に行われてきましたが、特定のグループの絶滅を目指して工場のような施設を造り、流れ作業で多数の市民を殺した民族はドイツ人以外にいません。ホロコーストは中東に移住しイスラエルを建国する上で重要な動機の一つともなりました。

この犯罪への反省から、歴代のドイツ政府は一貫してイスラエルを強く支援する路線を堅持してきました。

反ユダヤ主義を非難

さて、イスラエルとハマスの間で戦端が開かれると、ドイツでは決まってイスラエルの軍事行動に抗議するデモが行われます。今回もベルリンやフランクフルトはじめ、反ユダヤ的な暴力行為が起きました。デュッセルドルフでは旧シナゴグがあった場所で、何かが慰霊碑の上にゴミを撒いて放火しました。ミュンスターではイスラエルの国旗が焼かれ、ボンではシナゴグの扉に石が投げられ、ゲルゼンキルヒェンでは、約180人の群衆がシナゴグの前に集まり、ユダヤ人を罵倒する言葉を叫びました。

これに対し、メルケル首相とシュタインマイヤー大統領は、反ユダヤ的な暴力行為を強く非難し、「民主主義国家ドイツには、ユダヤ人に対する憎悪は絶対に許されない」と述べました。神は天地創造のはじめから、次のように語っておられます。

人の血を流す者は、人によって血を流される。創世記9：6

LCJE40 年間のすばらしい成果に、 心からの「マザル・トヴ (おめでとう) !」

チョーズン・ピープル・ミニストリーズ代表

ミッチ・グレイザー博士

翻訳 石井田 直二

心からの「おめでとう！」

私たちのネットワーク、LCJE が設立 40 周年を迎えたことに、お祝いの言葉を述べたいと思います。もちろん、LCJE の歴史は、その 6 年前の 1974 年に、ジョン・ストットとビリー・グラハム、および J.I. パッカーがスイスでローザンヌ運動を始めたことの上に建てられています。



この出来事とローザンヌ誓約の作成がなければ、今日の LCJE のお祝いはなかったでしょう。上部団体であるローザンヌ運動（旧名ローザンヌ世界宣教会議、または LCWE）との関係が、LCJE の 40 年の歴史を通じて重要な支えとなってきたことを、過小評価することはできません。ユダヤ人宣教のコミュニティと世界宣教のコミュニティとの間の豊かな関係は、LCJE が何十年にもわたって活動を継続できた推進力の重要な要素です。この関係は、私たちの活動に信用度を与え、霊的・神学的な深さをもたらしました。また、ユダヤ人を含むすべての人々の救いに対するビジョンを共有する仲間たちと、世界中で実り多い関係を築くことができたのも幸いでした。

1974 年の思い出

私は 1974 年のスイスのローザンヌでの世界宣教会議に出席はしませんでした。それが行われたことはよく覚えています。当時、私はジューズ・フォー・ジーザスで働いていましたので、指導者で創設者のモイシェ・ローゼンが、トゥビヤ・ザレツキー（後の LCJE 会長）に、その会議への出席を命じた時のことを覚えています。彼は、ローザンヌ誓約が書かれ、ローザンヌ世界宣教会議が設立されるよりも前に、この会議の重要性を見抜いていたのです。

トゥビヤは、会議から帰って来ると、世界中で進む神の御業について、また、他の国々の多くのクリスチャンがユダヤ人伝道に関心を寄せている様子について、すばらしい報告をしてくれました。今もそれを思い出します。

パタヤ大会の準備

少し「早送り」して、私と LCJE との関わりに話を進めましょう。それは、1979 年の秋から 1980 年の夏までの約 12 か月間に始まりました。それは、ジューズ・フォー・ジーザスでは「アボダの年」と言われる期間に当たり、全国のさまざまな都市の支部や事業所が閉鎖され、スタッフ全員が訓練のためにサンフランシスコに集められました。当時のスタッフ全員に与えられた主要プロジェクトの 1 つは、タイのパタヤで開催される

1980 年の LCWE 会議用の小冊子に収録する資料をまとめることでした。大量の情報をまとめる仕事を補佐する専門チームが作られ、その調整役となったのがジャン・モスコウィッツでした。

LCJE の基本文書 (LOP 7) を作成

私も他の多くの人々と共にこのプロジェクトのために資料を執筆しました。私たちの資料は他の人の作った資料とも結合され、後に LCJE の基本文書である「ユダヤ人へのクリスチャンの証し」(LOP Lausanne Occasional Paper 7) となりました。ご存じのとおり LCJE はこの会議で生まれました。そこには、私の博士号を指導して下さったアーサー・グラッサー博士、宣教団体 CWi (クリスチャン・ウィットネス・トゥー・イスラエル) の当時の指導者だったムルド・マクレオド牧師、ディヴィッド・ハーレイ、そして LCJE の形成に重要な役割を果たした 3 人、カイ・カジャー・ハンセン、オーレ・カバーム、ボディル・スキヨットもいたのです。

それから 40 年の時が流れましたが、LCJE はユダヤ人伝道団体の関係者だけでなく、主を愛し、ユダヤ人に福音を伝えたいと考える世界中の人々に、資料などのリソース、動機、インスピレーション、教育を提供することで多大な貢献をしたと、確かに言えるでしょう。

LCJE と私の関わり

誕生した LCJE に私はすぐに参加し、LCJE 北米支部の活動に関わるようになりましたが、同時に世界的な LCJE の活動にも関わり続けました。1983 年と 1986 年に英国で、1991 年にオランダのザイストで開催された初期の会議にも出席しました。1995 年のエルサレムでの会議を除いて、他のすべての国際協議に出席しました。

神の恵みによって、私は CEO の会議にも出席することができました。この会議は、私と妻にとって特に恵み豊かであり、ユダヤ人伝道に関わる人々と、深い関係を築くことができました。その関係は、その後の何年にもわたって、私の働きに関していくつかの素晴らしいパートナーシップを与えてくれました。

また、LCJE のリーダーシップにも楽しく参加させていただくことができ、国際調整委員会 (ICC) でも 8 年間奉仕することができました。

多くの会議への参加を通じて

一方、LCJE の北米での会議にも、全て参加したと思います。1997 年にチョーズン・ピープル・ミニストリーズ (CPM) の代表に就任した後も、もちろん私は LCJE との関わりを続け、国際的な集会や北米の集会だけでなく、アジアやヨーロッパでの会議にも参加し、米国のスタッフたちと共に、ユダヤ人伝道に関わる多くのパートナーたちを励ますことができました。CPM は、団体としても LCJE に加盟しており、何年にもわたって、各国で活動する多くの理事会メンバーを LCJE の集会に参加させ、訓練の場として活用してきました。これは、

各国の CPM の理事会メンバーにとって、豊かで示唆に富んだ経験となりました。

また私が CPM の代表になる前、また代表になってからの 23 年間に、ユダヤ人伝道の仲間たち、それも世界各地の人々と主が築かせて下さった個人的な人間関係は、おそらく LCJE に関与することなしには生まれなかったものだと思います。特に、私の博士論文の 2 番目の読者となって下さった、カイ・カジャー・ハンセンの指導には感謝しています。彼は大切な顧問であり友人であり、厳しい批評家でした。神に感謝します。

カイは私の論文を手伝ってくれただけでなく、世界大会や CEO の会議のために論文を書くように私に勧めてくれました。そして私は、それらの集会のために、また北米の会議のために多くの論文を書きました。正直に言うと、学術論文を書いて発表するスキルを、私は LCJE に関わることで身につけたのです。私がより良い研究者になるのを助けてくれたオーレやボディルの助言には永遠に感謝します。彼らは素晴らしい「スカンジナビア的」な学術的かつ批判的な視点を私の仕事に加えてくれました。

LCJE の未来に期待

そして私は、LCJE の将来に大きな期待を寄せています。今や LCJE がジム・メルニックによって率いられているのは、私の喜びです。私たちの前には、ディヴィッド・ハーレイ、ムルド・マクレオド、オーレ・カバメ、ジョン・ロスなど、多くの神の偉大な人々が、このリーダーシップの家族の一員でした。私たちのリーダーであるジムが、国際宣教コミュニティの前で私たちを代表すれば、明るい未来が開けるものと信じています。最後にもう一度、LCJE の 40 年間の奉仕に「おめでとう」を申し上げます。私たちの働きは、ユダヤ人伝道のコミュニティ内で様々なパートナーシップや関係を生み出すと共に、世界の教会に属する兄弟姉妹たちに影響を与えてきました。今後の年月も、実り多い素晴らしいものでありますようにと願います。

Mitch Glaser mglaser@chosenpeople.com

To Pattaya in 1980, Manila in 1989, and Cape Town in 2010

Tubiya Zaretsky

1980年パタヤ大会、1989年マニラ大会、そして2010年ケープタウン大会へ

前 LCJE 会長 トゥビヤ・ザレツキー博士

翻訳 石井田 直二

概要

LCJE (ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会) に明確な方向性を与えているのは二つの事柄です。第一は、ユダヤ人であれ他民族であれ、メシア・イエス以外に救いの希望はないということで、それはユダヤ人伝道の理論的根拠です。第二は伝道の優先順位が「まずユダヤ人に」であるべきだという点です。設立当初から、LCJE の DNA には、聖書的な明確な根拠に基づき、キリストのみによる救いと、ユダヤ人伝道の優先の原則が含まれていました。

理論的根拠と優先順位

メシア・イエスは、罪から永遠の命への救いの唯一の手段です。イエスは最後の過越の食事の時、ユダヤ人の弟子たちに「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(ヨハネ 14:6) と言われました。

それらの言葉の直接の証人であるシモン・ペテロは、使徒 4:10-12 で、イエス・キリストの御名によって語り「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです」と宣言しました。

さらに、イエスは第一に「イスラエルの家の失われた羊」のために来られたと言われています。使徒パウロは、福音を諸国民に伝えるように召されましたが、それでも、どこへ行っても同じ優先順序で福音を伝えました。すべての都市で、彼は最初にユダヤ人コミュニティ

に行って福音を伝え、次に異邦人に伝えました。彼はローマ 1:16 でも、その同じパターンと優先順序にもつづき、次のように記しています。「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」。

1989 年、マニラ大会へ

1980 年代、主流教派とリベラルなクリスチャンは二契約神学を提唱していました。それは、ユダヤ人はモーセを通じて神とすでに契約を結んでいるので新約の福音は不要だとする誤った見解です。これはユダヤ人伝道に対する挑戦です。そこで 1989 年、神学者、教会指導者、ユダヤ人伝道団体指導者ら 15 人が国際会議を行い、明確な福音主義の立場を確立しました。彼らは、キリスト教の福音とユダヤ人に関するウィローバンク宣言を作成しました。その声明は、福音はすべての人々にとって唯一の救いの希望だと宣言し、ユダヤ人に伝道をしないことは最大の反ユダヤ主義だと警告しました。ケネス・A・マイヤーズは、ユダヤ人伝道から撤退するクリスチャンに、「特定の人々に伝道をしないことは、その人々の霊的な死を保証することだ」と指摘しました。

同じ 1989 年の数か月後、フィリピンのマニラで開催



された第二回ローザンヌ世界宣教大会では、マニラ宣言が採択されました。「A. あまねく福音を伝えよ」の章の第3項、「イエス・キリストの独自性」にはユダヤ人伝道に対する支持が明言されたのです。

(日本語訳 <https://www.lausanne-japan.org/>)

アブラハムとの神の契約のゆえに、ユダヤ人はイエスをメシアと信じる必要はないとの議論は、今なお耳にしますが、私たちは彼らが他の人々と同様にイエスを必要としていると断言します。ユダヤ人に伝道しないことは、一種の反ユダヤ主義であり、キリストへの不忠実であるのみならず、福音を「まずユダヤ人に」伝えるという新約聖書の基本からの逸脱です。

私たちは、ユダヤ人は独自の神との契約があるので、イエスへの信仰は不要だとの見解に反対します。

ローザンヌ運動は、2004年に末宣教民族に関する別の会議を開催しました。出席したLCJEチームは、LOP 60 (Lausanne Occasional Paper) を発行しました。それには、当時のユダヤ人伝道に関する重要問題、課題、成功例がまとめられています。(注: LOP60の邦訳は、関西ミッション・リサーチ・センターが「ローザンヌ世界宣教シリーズ No.60」として発刊。その改訂版であるLOP 67は、すでに英語版が公開されているが、邦訳は未定。)

2010年、ケープタウン決意表明

ローザンヌ世界宣教運動はこの年、1974年以来3度目となる大会を開催しました。この南アフリカでの大会は、キリストの救いによる福音の和解の力が重要主題の1つでした。ケープタウン決意表明(コミットメント)には、ユダヤ人伝道を支持する次のような言葉が盛

り込まれました。「ユダヤ人は、神の契約及び神の約束について、パウロが異邦人について語っているような意味においての部外者だったわけではないが、それでもやはり、メシアなるイエスを通して神との和解を受ける必要があることを私たちは主張する。パウロは次のように述べた。罪においてはユダヤ人と異邦人の間に何の違いもなく、救いにおいても何の違いもない。十字架においてのみ、そして十字架によってのみ、両者ともひとりの御霊を通して父なる神に近づくことができるのである」(II-B-1: 日本ローザンヌ運動の公式訳)。

というわけで、1980年のパタヤでのささやかな始まりから2010年のケープタウンに至るまで、LCJEネットワークは教会全体に「ユダヤ人にも異邦人にも、救いの道はキリストだけ」とする宣言に同意するよう呼びかけています。LCJEは現在、ローザンヌ運動の35の分科会の中で最も長く活動するネットワークです。

「救いの道はキリストだけ」というキリストの独自性は、今もなお、そしてこれからも、私たちのネットワークとユダヤ人伝道にとっての第一の論理的根拠です。「キリストがすべての人の救い主でないなら、彼はメシアではない」と私たちは言います。2015年にエルサレムで開催されたLCJE第10回国際会議で採択された声明には、未来に向けた次のような言葉があります。「LCJEは、メシアの命を与えるメッセージをユダヤ人伝えるよう、聖霊の力を受けて全世界の教会に靈感を与える新たな指導者の育成を目指す。それは、パウロがローマ11:26で予告したように『すべてのイスラエルが救われる』時まで続くのである」。

Turya Zaretsky tuvya.zaretsky@jewsforjesus.org

Until the inauguration of LCJE

Susan Pearlman

LCJE 発足に至るまで

ジョーズ・フォー・ジーザス

スーザン・パールマン

翻訳 駒井 洋子

1970年のチャレンジ

ユダヤ人伝道専門の宣教師たちの集会在、ニューヨークで開催されたのは、1970年(私はまだ信者になる前)のことでした。今は現存しませんが、ザ・フェローシップ・オブ・クリスチャン・テストimoni・トゥザ・ジューズ(FCTJ)が、論客のシド・ローレンスをゲストスピーカーに招きました。彼は、ユダヤ人コミュニティの役職者で(現役のラビではなかったが)、彼の講演のトピックは「ユダヤ人コミュニティでの宣教師のイメージ」でした。彼は、出席していた宣教師たちに、彼らはユダヤ人コミュニティでのイメージを持っていないどころか、彼らのしていることはナリシキート(愚かな行為)でフッパ(厚顔無恥)だと信じているとの見解を示しました。FCTJはその後長く存続はしませんでした。しか



し、FCJTは、私たちユダヤ人ミッションコミュニティにおいて、この分野の専門家が集まり、議論し、互いに学びあうフォーラムの必要性を強く示してくれました。

パタヤ

1980年、ローザンヌ活動、後に世界福音宣教ローザンヌコミティー(LCWF)がタイ、パタヤで協議会を開催しました。世界中から900人以上の人々集まり、まだ福音が届けられていない人々に対して戦略的問題を深く考えるため参加しました。この協議会には、17の小さな協議会からなっていて、それぞれが、提示された方策に取り組んでいました。例えば、都市部へのアプローチ、名前だけのカトリック信者へのアプローチ、イスラム教徒へのアプローチ、学生へのアプローチ、などなどでした。

これらのグループの一番小さいグループは、でも決して小さい問題ではないが、ユダヤ人へ手を差し伸べるということを協議するものでした。私たちは18人の参加者しかいませんでしたが、この会に持ち寄った資料は、過去9か月の研究資料を編集した何百人もの人の声が含まれているものでした。この会は、エレブ・コルブが招集したもので、彼はthe Broad of Evangelism for

the Lutheran Church of the Missouri Synod の代表でした。そして、ディヴィッド・ハーレイは当時 All Nations Christian College in England の学長であり、the Church's Ministry Among the Jews の元宣教師であった人です。

ユダヤ人福音伝道における巨人

あのグループに参加していた人のほとんどは、今は主と共にいます。彼らは、ユダヤ人福音伝道に心を寄せ、私たちの全活動を通して神の業を見たいと望んでいた福音伝道の巨人でした。モイシェ・ローゼン、ルイス・ゴールドバーグ、メナヘム・ベン・ハイム、イーハン・モスコウィッツ、ペティ・バルク、リチャード・デ・リッター、ムルド・マクレオドなどがこれら巨人と呼ばれる人々です。まだ数人が私たちの周りにいます。そして、これが私たちの40年にわたる歴史的展望と同時に、LCJE についての回想と共にこれらの人々についてお知らせしたいことなのです。

私たちの、「ユダヤ人に到達する働きグループ」から発生したのがタスクフォースの編成です。オーレ・カバーメ、カイ・カジャー・ハンセンは Lausanne Committee Task on Jewish Evangelism (LCTJE) のための原案をとりまとめました。後に、短縮して今の名である、Lausanne Consultation on Jewish Evangelism (LCJE) となったものです。しかし、このネットワークを十分に理解されるためには、大切なことは、モイシェ・ローゼンやムルド・マクレオドなど主要人物のビジョンやサポートがなければ、LCJE は成立するにはもっと時間がかかったか、まったく成立しないかであったということです。ディヴィッド・ハーレイは「他のローザンヌミーティングから発生したワーキンググループのように、私たちは、グループが活発にそして成長するためメンバーシップを設け、会費の支払いをするようにしました。」と回想しています。

その後、私たちは、クリスチャン・ウイットネス・トゥ・イスラエル (CWI) のムルド・マクレオドを初代総裁に選びました。そして、ディヴィッド・ハーレイは国際コーディネーターとして働きを続けました。私は、アシスタントコーディネーターとして働きをし、一方オーレ・クリスチャン・M・カバーメは LCJE の「運営委員会」として知られていた会のメンバーとしての働きをしていました。当時カイは公式職名を与えられていませんでしたが、彼とオーレは私たちの「スカンジナビア・デュオ」として、背後で物事を実現させる働きをしていました。しかし、この熟練スカンジナビアチームは、他の私たちユダヤ人に、いわゆる歩調を合わせるようにしてくれていました。まず私たちが最初に取り掛かったことの一つは、互いに連絡が取れるように、全ユダヤ人ミッションの名簿を編纂することでした。それは私の責任でした。

1983 年、英国ニューマーケットで、パタヤ後の協議会を催しました。17 のミッション エージェンシーと 7 つの神学校からの代表者 52 名の参加がありました。なんとその協議会といたら! 発表された論文は、非常に興味深く、挑発的で、今日でも妥当性のあるものでした。

この協議会から、私たちは LCJE の地域グループを作りました。これは、一年ごとに集会を持つようになりました。北アメリカグループは一番古いグループで、そして一番新しいグループは西アフリカで、ナイジェリアに基地をおいています。私たちは、長い道のりを歩んで、ここまでやってきました。私の自分の集会のすべてに参加できなかったものの、私は LCJE が発足して以来、

すべての国際協議会と北米協議会会議に参加してきたただ一人の LCJE のメンバーであると思います。

私たちは 40 年以上にわたって資料的生産部門を開いてきましたが、そこには LCJE 会報誌作成も含まれています。会報誌は、最初はエリザベス・ヒルが編集責任を務め、次にカイ・カジャー・ハンセンが、そして現在はジム・メルニックが編集を務めています。私たちは互いにつながりを持ち、あるものはほんの数年であり、あるものは数十年の交わりを持っています。私は確信しています。もし、LCJE のためでなければ、このように働きのため交わりを設ける場所をもつことはなかったでしょう。成功するミニストリーのカギの一つは、とくにユダヤ人宣教の分野での困難な働きにおいて、他の人々とパートナーを組むという能力なのです。私たちは、互いに学びあう必要があり、互いに同情させます。それは、私たちが経験する大きな教会では時にはほとんど理解ができないことだと思っています。

私は、何年にもわたって私たちを支え、成長させてくださった方々の偉業に謝意を表明したいと思います。モイシェ・ローゼンは、2007 年、彼の「卒業」までの間、私たちのネットワークの原動力であったことは間違いありません。彼は、LCJE の集会で何も行わないときであっても、必ず出席することを常としていました。なぜなら、ユダヤ人宣教における重要な位置にいる者が出席することによって、LCJE が重要な存在であることを表すものと感じていたからです。また、彼は、LCJE のスタッフに LCJE の宣教に時間と努力を捧げるように励ましました。そして、ディヴィッド・ブリックナーは確かにモイシェ・ローゼンの模範を継承しています。

カイ・カジャー・ハンセンのことを話さないではおられません。カイとデンマークチームのバーガー・ペーターソンとフレミング・マルカーソンは LCJE のネットワークのために精力的に働いてくれました。彼は、私たちの要求を快く受け入れ、その間ほんの少しの報酬で働いてくれました。

ムルド・マクレオドは私たちの初代の LCJE 総裁にふさわしい器でした。彼は、大変尊敬され、神の国の発展に可能性のないものに対しては我慢ができない人だということでも有名でした。彼は「ロバート議事規則」についてよく知識がありました。

オーレ・クリスチャン・カバーメは LCJE の第2期の総裁で、イスラエルのハイファでルーテル教会の牧師で、メシアニックの会衆を素晴らしく牧会していました。この牧会のスキルは私たち成長期の活動には大変必要とするものでした。かつてチャイム・ヴァイツマンがハリー・トルーマンに「私も、大統領の国の大統領なんですよ。」と話したように。そして、私たちのネットワークの誰もがオーレの大統領職を担う潜在的能力を持っていました。それにしても、オーレの外交的手腕は堂に入っており、彼のペンは、私たちの声明文書を巧みに表し、多種多様な活動家からコンセンサスを引き出すというものでした。

私たちの「スカンジナビアチーム」はボーディル・スキットによって完成度を増します。彼女(長い間タイトルなし)は、コミティーメンバーのため働きをし、最近では ICC のためにも働いています。デンマーク・イスラエル・ミッションの前 CEO であり、優秀な神学者のボーディルは協議会企画の中核であり、私たちの LCJE 関係の分野で、若いユダヤ人従事者を獲得するためのモチベーターとなっています。

2000 年から、トロントでの第 11 回目の国際会議まではトゥビヤ・ザレツキーが総裁としての働きをしまし

た。ユダヤ人福音伝道の従事者として、そしてイエスを信じる第一世代として、トゥピヤは力と配慮を持って司会役を務め、そしてカタリストとしてローザンヌ活動に対する私たちの顔でもありました。彼の勤勉さと激務は私たちのネットワークに大きな励ましで、非常に重要であります。

もちろん 40 年以上の間に、関わってくださった方々はあまりにも多く、この短い回想録で、十分に感謝の気持ちを表すことはできません。アーサー・グラッサー、ルイス・ゴールドバーグ、リチャード・デ・リッター、マイケル・ブラウンのような学者、また数えきれない方々が私たちの活動に神学的根拠を与えてくれたことに謝意を表明します。私は、すべての地域コーディネーターをリストに挙げることはできません、しかし、一人一人

の方が LCJE の成長のため貢献してくれました。それは、論文を書き、会議に参加するなど、時間と資源を提供して彼ら自身の地域だけではなく、世界的活動に貢献してくれたということです。

おそらく、私たちのネットワークで最も話題に挙げるサクセスストーリーは、パートナーシップとコラボレーションが生じたということでしょう。パタヤで、わずか 18 人のグループから、神の王国のためのこれほどの勢力が生まれるなどと誰が予想できたでしょうか？ ダン・セレドが総裁としての任期を開始、ジム・メルニックが国際コーディネーターとしての職を継続します。どうか主が共にいてくださり、来る 40 年がより素晴らしいものとなるように祈りましょう。

Susan.perlman@jewsforjesus.org

Memories of LCJE Teresa Newell

LCJE の思い出

前 LCJE 北米コーディネーター

テレサ・ニューウェル博士

翻訳 駒井 洋子

LCJE との最初のつながり

私が初めて LCJE について聞いたのは 1982 年のことです。当時、私はアメリカに最初の CMJ のオフィスを開設したところで、CMJ の宣教師ディヴィッド・ハーレイ師が、新しく組織された LCJE の初代国際コーディネーターに任命されたというニュースを聞きました。

ディヴィッドと彼の妻ローズマリーは、エチオピアで、共産主義が支配権を持つようになり、二人を英国へ送り返す 1979 年まで、ユダヤ人のための働きをしていました。

私は、CMJ アメリカと LCJE が同時期に誕生したということを度々思い起こしています。

1990 年代、私は LCJE の国内外の会議に出席し始めました。1995 年、LCJE の国際会議がエルサレムで開催されました。アーサー・グラッサー博士と一緒に、とても暑い日にエルサレムの急勾配の丘を登っていたことを覚えています。ある地点で、グラッサー博士はめまいがして、立ち止まりました。私たちはこの聖徒をなんと敬慕していたことでしょうか。彼は、中国で宣教師の働きをしていた間も、ユダヤ人に対して計り知れないほどの大きな心を持っていました。彼は、若い信仰者として、ニューヨークでユダヤ人アウトリーチに携わっていた若い時のことをよく話してくれました。

1999 年に、ロングアイランドのホフストラ大学で国際会議が開催され、私は LCJE 北アメリカコーディネーターとなり、その後 8 年間その立場にとどまりました。夫のブルースは常に私の側にいて、アメリカ全土の市で開催される年次会議のすべてについて事細かく働いて



くれました。デンマークのカイ・カジャー・ハンセン博士は、私が北アメリカコーディネーターであったときの国際コーディネーターでした。私たちは、カイの毎年の年間レポートを楽しみにして、それぞれのセッションを時間厳守で開始する、また終了することを学びました！

CEO 協議会の起源

CEO 協議会の発足は 1999 年の国際会議の後のことでした。地域コーディネーターは 4 年に一回の会議では時間が開きすぎると感じていました。効果的に分かち合い、交わりを深め、戦略的に計画を練るために、国際会議の間に 2 年に一度、会合をすることを決めました。第一回の CEO 会議は、2001 年 8 月 9 日～13 日までノルウェーのオスロで開催され、ノルウェー・チャーチ・ミニストリー・トゥ・イスラエル (NCMI) が主催者で、ロルフ・G・ハイトマンが事務総長として務めました。ロルフ・グンナーは、オスロからノルウェー氷河を横切り西海岸の彼の町ベルゲンまでの旅に招待してくれました。ロルフと彼の妻ボーディル、ジム・シブリーとキャシー・シブリー、スティーブ・コーヘン、ブルースと私はロルフの車に詰め込まれ、ノルウェー冒険の旅へ出発しました。そこには、氷河の頂上のレストランで、今まで食べたことがない美味しいサーモンも含まれていました。

次の 2005 年 CEO 会議は、ジャン・ポール・レムブの主催で、フランス、リヨンの彼の家の近くのリトリートハウスで開催されました。各 CEO 会議では、各国からのコーディネーターが 10 分のレポートないし論文を発表し、その後はディスカッションと質問が行われました。地域コーディネーターはカジュアルな、フォーマルな環境のもと共に集まり、励まされました。CEO 会議の成果の一つは、各様々な国で、より多くの会議が自主的により頻繁に起こされているということです。毎年、新しい国が自身の新しい LCJE 支部を開設しました。それは、私たちのネットワークが成長していく心躍るときでした。

tnewell777@comcast.net

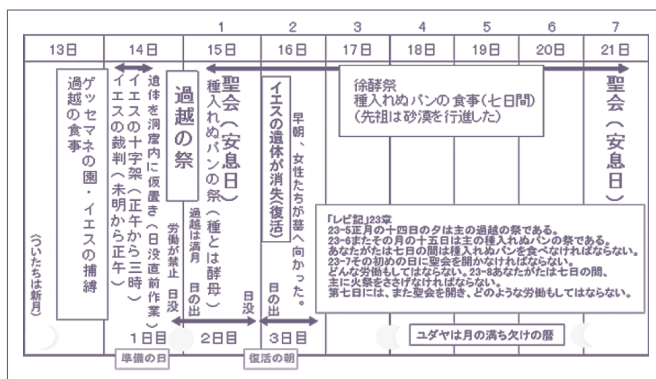
メシアの家代表 網本 バフロ

スコット(仮庵祭 9/20-27) おめでとうございます!!!
いつの間にか秋になりましたね。本当に早いものです。春の祭りには、ペサハ(過越祭/徐酵祭)に引き続き、ヨム・ハ・ピクリーム(初穂祭)そしてシャブオット(七週祭)がありましたが、皆さまいかがでしたか?皆さまもご存知かもしれませんが、ぜひシェアさせてください。聖書にはイースター(復活祭)の登場はありませんが、衝撃的なことに、ヨム・ハ・ピクリームは、イエシュアの復活に深く関係しているのです。

レビ 23:9-12 に「この初穂を差し出す日には、傷のない一歳の雄羊を焼き尽くす捧げ物として主にささげる。」という記載がありますね。ヨム・ハ・ピクリームの「ピクリーム」は、元となるヘブライ語の単語が「ペコール」なのですが、「長子」または「初子」の意味が含まれています。つまり、私たちにとってイエシュアは贖いである「神の子の(※長子)」また「罪(傷)のない神の子羊」と表現できるということです。初穂祭には、神への捧げ物(屠られる子羊)としてのメシア、「死から蘇る者の初穂」としてのイエシュアの復活の意味が隠されているのです。イエシュアの復活によって私たちに宿られた新しい霊による永遠の喜びがあり、これ以上の喜びはありません。

「…キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。」1 コリント 15:20

「御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。」ヤコブ 1:18



イースターとヨム・ハ・ピクリームは必ずしも毎年同じ日になるわけではありませんが、神の計画ではイエシュアの復活はヨム・ハ・ピクリームの日でなければなりません。イエシュアの復活を祝う際、原点に帰り、神が命じられたヨム・ハ・ピクリームにも目を向け、イエシュアが十字架によって神の子とされたことを感謝&賛美したいと思う私でした。

☆ J ♥ ISL 部屋 ☆

さて、今回のタイトルは「今こそ『タラントンのたとえ』!! 大きな試練を乗り越えよう」です。皆さまもタラントンのたとえ話はよく耳にするとお思います。そのたとえ話は小さな問題のように見えるかもしれませんが、実際には深刻な問題があるのです。主人から商売のための元手を託されたにもかかわらず怠けて儲けを稼ぎ出せなかった、その人

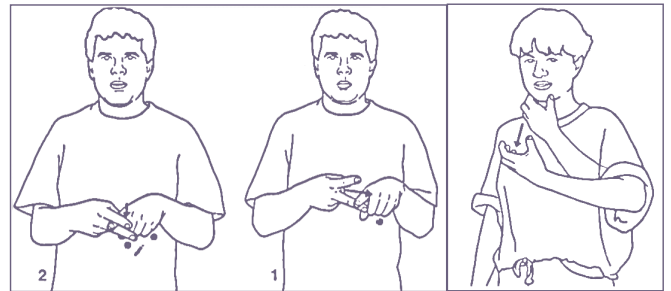


図1 割礼

図2 ラビ

■イスラエル手話(※外国語手話使用)

の怠慢を問題にしているのでしょうか。実はそうではないのです。ここで聖書が問題にしているのは儲けをもたらさなかったという結果よりも、1タラントンを預かった者がその主人に対して抱いていた思いそのものを問題としているのです。聖書にはこう書いてあります。「…1タラントンを預かった者も進み出て言った。

『ご主人様、あなたは時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です!』マタイ 25:14-30 (24-25)

1タラントンを託された人は、主人に対して親しみよりも、恐れを抱いていました。主人から託された決して少なくない1タラントンというお金、この1タラントンは主人から信頼されたしるしであったはずですが、1タラントンを託された人は、主人から委託された金は彼にとってはチャンスというより、失敗して借金をこしらえたときのことを思い煩い、かえってこのことによって自分が縛られ、自分の自由を奪うものともなる厄介なものと考えたのです。そこで、彼は自分の過ちをとがめられることなく窮地に追い込まれることはないと考え、託された資金を土の中に埋めておいたのです。

世の終りにはそのような自己中心的なビリーバーが増えています。

「…終わりの時には、困難な時期が来ることを悟りなさい。そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に従わず、恩を知らず、和解せず、中傷し、節度がなく、残忍になり、善を好まず、人を裏切り、軽率になり、思い上がり、神よりも快楽を愛し、信心を装いながら、その実、信心の力を否定するようになります。こういう人々を避けなさい。」(2テモテ 3:1-5)

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれで行くようになります。しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。」(2テモテ 4:2-5)

..... 8P へ続く▶

オリンピックの影響で更に悪化してしまったコロナ禍の中、今後とも大きな試練は続きます。イエシュアが教えられた「タラントンのたとえ」を改めて学び、宗教的模範に抵触しない生活の形を守ることに終始する姿をせず、神から託されているものを人と社会に喜ばれる形で神にお答えしましょう。そして、同じコングリゲーションの中でイエシュアの体の器官としてどんなことがあってもリーダーを支え、ペリーパー同士で励まし合い、愛し合ひましょう。

前回の LCJE ニュースレターでお伝えした 4 月からのオンラインによるプロジェクトですが、人材不足により延期となっていましたので、どうかお祈りください。日常生活

で使われる一般手話訳聖書制作の新しい働きも引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。

【メシアの家】ゆうちょ銀行

記号

10080 番号 87052131 メシアノイエ

店名

〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番 008 普通貯金 8705213

(他銀行からのお振込)

Email:info@hom-japan.com

(お振込みいただいた後、ぜひ Email にてお知らせ下さい)

LCJE日本支部事務局レター

LCJE

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJE として支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断していただきますよう、お願いいたします。

2021年度祈禱会予定

場 所	10月	11月	12月	22年/1月	会 場
大阪 (6:30より)	14日	11日	9日	13日	北浜スクエア (VIP関西センター8F)
東京 (1:30より)	9日	13日	11日	8日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈りにご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。

【東京祈りにご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈りの会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧ください。

LCJE日本支部 2021年7月度会計

収入・献金			支出・現金		
科 目	金 額		科 目	金 額	
献 金	28,700		事 務 費	5,800	
大阪祈り会席上献金	5,000		NEWSレター製作費	0	
			郵 送 費	0	
			郵便振替手数料	1,800	
			通 信 費	2,800	
			賃 借 ・ 管 理 費	22,000	
			高 熱 費 ・ 共 益 費	9,098	
			交 通 旅 費	5,000	
			祈 り 会 経 費	7,000	
合 計	33,700		合 計	53,498	
			差 引 残 高	-19,798	
前月よりの繰越	113,662		次 月 繰 越 金	93,864	

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿を、インターネットもしくは原稿用紙で、受け付けています。

文字数は 2000 文字前後、投稿記事は郵送か、lcjehome@hotmail.com 又は FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様、いつも LCJE 日本支部を覚えてご祈援くださり、心より感謝いたします。私たちは本年 4 月から始めました、LCJE オンライン祈禱会を、毎月最終火曜日の夜に継続して開催する予定です。いままで定例祈禱会に参加できなかった方々も、ご参加いただける企画としてご好評いただいております。スピーカーは毎月交代します。詳しくは HP にてご確認ください。今後も上からの知恵を仰ぎつつ、この活動を継続させていただきたいと願っています。LCJE 発足 40 周年記念の記事を今月号も掲載しています。続いて多くのユダヤ人が救い主を受け入れて、救われます様にお祈りください。イスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーの皆様に主の祝福がありますように。

シャローム

LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝